

◎ 共感

わんぱくフェスティバルをととても楽しみにしている子ども達。かけっこをしたり、リレーをしたり・・・自分たちで走る順番を考えて楽しんでいます。リレーでは「園長！大人が足りないから来て！」と言いに来ます。よくよく聞いてみると、子どもVS大人の対決をするということなんです。うーん↓悩みます。私を誘ったか・・・。50後半は走れません・・・しかし気合だけはあるので「どれどれ！」と言いながらメンバーに加わろうとすると、いました！若手が・・・若手の職員を駆り出して、真剣勝負です！職員も全力で走ります。私は2歳児クラスと応援です。子どもも大人もキラキラしています。

縄跳び、跳び箱、鉄棒など園庭に準備しておく、自分たちで挑戦しています。連続逆上がり、竹馬、得意なものはそれぞれ違いますが、自分ができる種目はできない子に教えたり、教わったりしています。特にばななさんは、毎年「冒険レンジャー」の発表があります。4月、もうすでに登れる子どももいましたが、時間のかかる子どももいます。それぞれのやる気スイッチが押されるタイミングが違うので職員は無理強いせず、見守っていました。そんな中、Hくんが「園長！Jくんが、冒険レンジャー登れたよ！」と嬉しそうに報告に来てくれました。HくんはJくんが大好きです。Jくんのやる気スイッチが押されるのを待っているものの、登れないのを気にかけていたのでしょうか。まるで自分のことのように嬉しそうに「見に来て！早く早く！」と言っています。Hくんは、Jくんがボルダリングを登る様子をハラハラしながら見ていました。Jくんが登ると、目を丸くしながら「ほらね！」とどや顔を見せてくれました。Jくんの照れ笑いと、Hくんの何とも言えないようなうれしい顔を見ながら、少し涙が出そうになりました。

共感するってどういうことなんだろう？と子ども達から学ばせてもらいました。悲しいとき不安な時だけではなく、喜びも共感出来たらもっともっと、友達との結びつきが深まります。人との距離が希薄になりやすい現代です。こんな経験をする子ども達も少なくなってきたのではないかと思います。おおむたこども園の保育は「自分の力で！」が基本です。子ども達もよくわかっていて、大人のを借りようとしません。ただ、子ども達同士、応援したり、励まし合って言う姿を良く見かけます。だから出来るようになった時は、自分のことのようにうれしいんでしょうね。

今年のわんぱくフェスティバル、楽しみにしておいてくださいね。みんな楽しく頑張っています。

★ 甘え

「甘え」と聞くと、あまり肯定されない感じに受け取られてしまいます。「そんな甘えたことでどうするの！」・・・本当にそうでしょうか？

子育てで大事なものは何か？と問われて「愛情」と答える人は多いと思います。子ども側から大人に愛情を求めるアクションとして「甘え」があります。「甘え」があって初めて、「愛情」を伝えることができます。甘えない子に愛情を伝えることはなかなか難しいことです。「愛情」と「甘え」は車の両輪の輪のようなものです。「愛情」を大切にするなら「甘え」も大切にするべきなのです。世間では愛情は大事、でも甘えはだめだ！と言う認識が多いように思います。

甘えを肯定してもらえなかった子どもは、大人になるにつれて「依存症」に向かいます。「依存症」は満たされない気持ちをゲーム、アルコールや薬物、食べ物、パチンコなどに求めていきます・・・これらの依存症について共通するのは、いくら依存しても安心感、満足感が得られない、そして孤独感と罪悪感にさいなまれるという流れになってきます。

日本は元来、子どもの甘えを大切にする国でした。それは決して恥ずべきことではありません。なぜなら「甘え」は人への信頼と思いやりを育てるからです。